

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道175号 西脇北バイパス				事業区分	一般国道		事業主体	国土交通省 近畿地方整備局	
起終点	自：兵庫県西脇市下戸田 至：兵庫県西脇市黒田庄町大伏							延長	5.2km	
事業概要										
東播丹波連絡道路は、東播地域と丹波地域の連携を強化するとともに、山陽自動車道、中国縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道と一体となって広域ネットワークを形成する延長約30kmの高規格道路である。 国道175号西脇北バイパスは、東播丹波連絡道路の一部を形成し、西脇市域と東播地域及び丹波地域へのアクセス性の向上、西脇市域における国道175号の交通混雑の緩和、交通安全の確保等を目的とした道路である。										
H9年度事業化			H10年度都市計画決定 (H13年度変更)			H12年度用地着手		H18年度工事着手		
全体事業費		551億円		事業進捗率 (令和6年3月末時点)		約68%		供用済延長		2.1km
計画交通量		17,600台／日								
費用対効果分析	B/C			EIRR			総費用	(残事業)/(事業全体)		基準年
	(事業全体)			(事業全体)			169/741億円	712/751億円		
	1.01			4.0%			事業費：126/692億円	走行時間短縮便益：675/713億円		令和6年
	1.5 [2%]						維持管理費：43/49億円	走行経費減少便益：29/30億円		
	2.0 [1%]						更新費：—	交通事故減少便益：7.8/7.8億円		
	(残事業)			(残事業)			(事業全体)		(残事業)	
	4.2			20.4%			交通量	B/C=0.91～1.1(±10%)		交通量
5.5 [2%]						事業費	B/C=0.996～1.03(±10%)		事業費	B/C=3.9～4.5(±10%)
6.3 [1%]						事業期間	B/C=0.97～1.05(±20%)		事業期間	B/C=4.1～4.3(±20%)
事業の効果等										
①交通混雑の緩和										
・主要渋滞箇所である上戸田南交差点等において、朝夕の通勤時間帯に、交通混雑が発生。										
・西脇北バイパスの整備により交通の転換が図られ、交通混雑の緩和に期待。										
②交通安全の確保										
・開通済区間に並行する国道175号では、開通後の死傷事故件数が約4割減。										
・未開通区間に並行する国道175号では、年平均5.5件の死傷事故が発生。また、交通混雑が主な原因と考えられる追突事故が約7割を占める。										
・西脇北バイパスの整備により交通混雑が緩和し、国道175号の安全性の向上に期待。										
③地域のアクセス改善										
・西脇市は北播磨医療圏と丹波医療圏が連携した広域な医療圏に位置し、当該圏域では救急搬送の約8割が国道175号沿線の病院へ搬送。										
・平成29年には西脇市北部の救急医療体制の強化を図るため、西脇北バイパス整備区間に西脇消防署西脇北出張所が設置。										
・西脇北バイパスの整備により、広域な医療圏での救急医療活動への支援に期待。										
④地域の防災性向上										
・国道175号は緊急輸送道路に指定されており、災害時の避難・救援など重要な役割を担う。										
・西脇市では過去に4回の浸水被害が発生している他、西脇北バイパスの並行区間には防災点検箇所が3箇所存在。										
・西脇北バイパスの整備により、地域の防災性向上に期待。										
関係する地方公共団体等の意見										
地域から頂いた主な意見等：										
・令和6年7月に西脇北バイパス整備促進協議会から一般国道175号西脇北バイパスの早期整備の要望を										

受けている。

・令和6年8月に一般国道175号整備促進期成同盟会から一般国道175号西脇北バイパスの早期整備の要望を受けている。

兵庫県知事の意見：

一般国道175号西脇北バイパスは、中国自動車道滝野社ICと北近畿豊岡自動車道氷上ICを連絡する地域高規格道路「東播丹波連絡道路」の一部を形成する重要な道路である。

当該区間の国道175号の現道は、交通量が交通容量を超過し、特に朝夕の通勤時間帯には上戸田南交差点等で交通混雑が目立つなど、交通混雑の緩和や安全性の向上を図る西脇北バイパスの早期全線供用が待ち望まれている。

西脇北バイパス5.2kmのうち、西脇市寺内～大伏間2.1kmは令和2年3月に供用済みであるものの、西脇市下戸田～寺内間3.1kmは未供用となっている。このため、既に公表済みの本バイパスの令和8年春の全線供用に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

なお、事業の実施にあたっては、資材価格が高騰している状況ではあるものの、より一層のコスト縮減に努めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道175号西脇北バイパス」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針(原案)のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

西脇北バイパス周辺地域の人口は減少傾向にあるものの、世帯数は増加しており、1世帯あたりの自動車保有台数は県平均の約2倍と、車への依存が高い。

国道175号の交通量は横ばいであり依然として交通容量を超過している状況であり、広域的な交通が約6割を占める状況に変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成9年度事業化、用地取進捗率約100%、事業進捗率約68%(令和6年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、令和8年春頃の全線2車線による開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の採用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

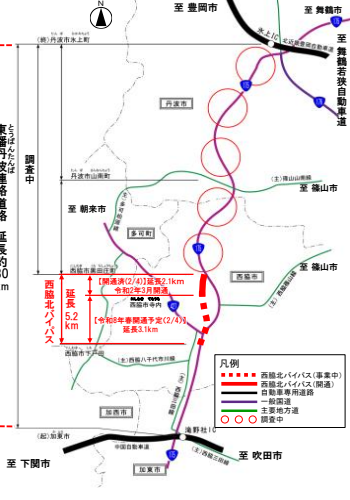
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値)